

# 平成30年度 デザイン活用型製品開発支援事業

## 1 目的

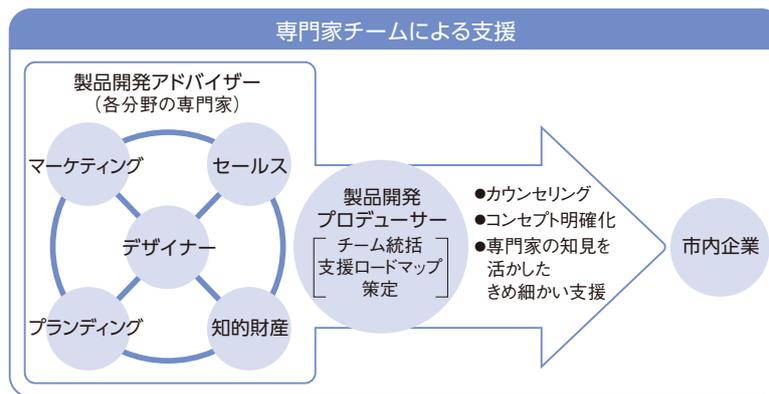
新製品開発や新事業展開を目指す意欲のある市内中小企業に対して、「製品開発プロデューサー」及びマーケティング、セールス、ブランディング、デザイン、知的財産等の各分野の専門家である「製品開発アドバイザー」により構成される支援チームを派遣し、製品開発におけるプロセスの入口から出口まで一貫した支援を行うことで、市内製造業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

## 2 支援対象者

- 札幌市内に本社を有し、製造業等を営む中小企業者で、市が定める要件を満たすもの
- ・具体的な商品アイデア又は試作品を有すること
  - ・事業を推進するにあたり、デザイン・試作・営業・販売促進費用等の実費負担が可能であること
  - ・完成した製品の新たな市場参入等の成長意欲を有すること など

## 3 支援内容

製品開発プロデューサーが具体的な支援計画を策定するとともに、マーケティング、セールス、ブランディング、デザイン、知的財産等の各分野の専門家である製品開発アドバイザー（上記目的と同じ）を企業の相談内容に応じて選定し、支援チームを結成して企業の製品開発、新事業展開の取組を支援します。



## 4 支援件数

- 3件程度  
(平成30年度採択案件)
- ・システムキッチンのリニューアル(株式会社樋口)
  - ・紙箱メーカーが製作した紙製収納雑貨製品のブラッシュアップや新製品の開発(モリタ株式会社)
  - ・木製品のオリジナル製品ラインナップ見直しと、新ブランドの構築(チエモク株式会社)

## 5 支援対象経費

- ・専門家チームによる製品開発支援(支援計画策定、専門家派遣8回程度)、試作(一部)・・・ 無料
- ・デザイン・試作・営業・販売促進費用等の経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 企業負担

## 6 募集期間

平成30年5月15日～7月31日

## 7 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部  
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号 札幌市産業振興センター  
TEL:011-820-2062 FAX:011-815-9321 URL:<http://www.sec.or.jp/other/782.html>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

# チエモク株式会社

- 所在地／札幌市西区小別沢140
- TEL／011-790-7012 ●FAX／011-790-7013
- 代表者／代表取締役 三島 千枝
- 設立／2008(平成20)年11月 ●従業員数／8名
- URL／<https://www.chiemoku.co.jp>

札幌スタイル認証製品「黑板消しストラップ」などが人気の工房。油や水分、着色などの汚れに強く、長期に渡って効果が持続するガラスコートで仕上げた食器など、デザイン性だけでなく実用性も高い商品を製作。

## 日常使いのシンプルな木製器を基軸とした新ブランドの構築 ～毎日使いたい、長く愛用したい木製食器～

### 想いを込めた基幹商品を

小別沢の木立に佇む木製クラフトの工房「チエモク」。OEMも手掛けてきたが、ここ数年、オリジナル商品の食器・カトラリーの売上が伸びている。下川町産のハンノキとシラカバを使用した赤ちゃん向け食器「もりのともだち」シリーズは、持ちやすい、ひっくり返りにくいなど、乳幼児が自分で食べるときはもちろん、離乳食を食べさせるお母さんにも使いやすい食器。かわいらしさと工夫があふれた商品で、ギフトとして人気がある。そこから、大人になっても暮らしの中に「木」の温かみを感じてほしいと願い、新しいブランドを構築することになった。

### デザイナー×木工職人

「日常使いの木のうつわでプレミアムな暮らしを」をテーマに今回の補助事業を活用した同工房には、製品開発アドバイザーとして、高橋尚基氏(工業デザイナー/商品開発コンサルタント)、柏崎直人氏(コピーライター)、山村真一氏(工業デザイナー/株式会社コボ代表取締役社長)が派遣された。新製品開発のため、チエモクの理念や特徴、開発テーマといった抽象的な概念を具体的な「もの」の形に落とし込むため、定期的なミーティングが行われ、使い勝手や新しさ、使う人の気持ちをちょっと豊かにする心

地良さ、などさまざまな視点からブレインストーミングと試作を繰り返した。最終デザインのうつわを手で包むと、その曲線が手によく馴染み、「あれもいいな、これにもいいな」と食べたい物がいろいろと浮かんでくる。

また、もののデザインと並行して、販売戦略やブランドのテーマを表現するコミュニケーションツールの策定も行った。長年の夢だった“木々に囲まれた工房”を叶えてくれたこの土地に感謝し、「小別沢」の雰囲気や地名も取り入れたロゴを検討した。

木製食器の新シリーズは、製造開始にあたり、クラウドファンディングが活用される予定。たくさんのファンに支えられてデビューする、その日が待ち遠しい。

### 毎日使ってほしいから、 デザインや使い勝手にもこだわりたいです

この補助事業ではデザイナーなどのアドバイザーを派遣してもらえるので、費用のことを気にせずに安心していろいろ相談でき、とても愛着の持てるデザインが生まれました。アドバイザーのみなさん、ありがとうございます。



代表取締役  
三島 千枝



▲うつわが生まれる工房



▲「もりのともだち」のうつわ



▲たくさんのキーワードが集まったブレインストーミング